

令和8年度 甲子地域会議 開催結果【会議録】

1. 日 時：令和8年8月3日(月) 18時30分～20時00分

2. 場 所：松倉地区コミュニティ消防センター 2階ホール

3. 出席者：地域会議構成員他 構成員29名、一般3名、事務局7名

別紙のとおり（省略）

釜石市

小野市長、平松副市長ほか9名

次第裏面のとおり（省略）

合計 50名

4. 質疑応答の概要

(1) 令和7年度地域課題に対する市の対応方針について

(2) 過去の地域課題(実施調整)の対応結果について

質問： 過去の地域課題とあるが、私たちが震災前に提出した溜枡の底上げや、側溝の狭窄の地域課題について、毎年やっていくということになっているが、半分しか直されていない。

回答： 以前あげていただいた課題について、溜枡がかなり深いことや修繕箇所が多岐にわたること、側溝付近の土地がゆがみ入り口が狭まっている箇所が数十か所あることを確認した。

これらは毎年少しずつ修繕している。過去の地域課題に残っていないのは、いったん実施ということにして、それを今進めているため、完了したわけではない。今後も修繕を進めてまいりますので、よろしくお願いします。

質問： 去年、狭窄を1か所、30m位やっていただいたが、両方の枡は底上げされなかった。狭窄を工事する際、自治会に話がなく工事された。話があればここも、とお願いできたのに。

回答： 申し訳ございません。数年単位で進めている事業については、年度年度で町内会や町内会長と、工事箇所等を確認しながら進めていきたいと思うので、よろしくお願いします。

質問： 洞泉駅前のバス停の件について、この地域はバス利用者が多い。松倉地区等には待合所があるが、この地域にはない。現在のバス停の位置で待合所を設置できないから実施困難だと

言われても何の意味もない。地権者と話をして、バス停を移設できる場所があるのであれば待合所を作してほしい。

回答： バス停の位置を東西にずらしてでも待合所を設置できないか、令和5年度に確認した。地権者にも相談したが、なかなか土地の確保ができなかったため、今回の回答になった。現在のバス停の位置が路上であるため、屋根をかけることも難しく、解決策が見つからない状況。

質問： 私も地権者との話し合いに立ち会ったが、どうしても民地が確保できなかった。
去年、ガソリンスタンドの左側と隣の2軒が空き家になったので、もう一度地権者と話をしてみしてほしい。

回答： 岩手県交通バス停の位置は東北運輸局に届出して設置しているもの。検討範囲を広げつつ、許容範囲や地権者の状況等、最新のものを確認してみる。

(3) 保健師の配置と生活応援センターのあり方について

意見： 甲子地区民生児童委員協議会の立場から申し上げます。今年の3月、保健福祉部長から甲子地区生活応援センターの保健師を2人から1人にする旨の説明を受けた。保健福祉部長には、地域福祉サービスの低下を招かないようにということと、残った1人の保健師の業務量が増えるので、配慮をできるだけお願いしたいという点を要望した。

民生委員は現在17人体制で、大橋地区から松倉社宅までを5ブロックで分け、1か月ごとに保健師と情報交換している。独居老人の施設入所状況や認知症の進行状況や徘徊情報、生徒児童の見守りについて、一人ひとりの情報交換をする。保健師の負担はあると思うが、本庁は遠いし、自分たちの顔をわかって対応してもらえるのか不安がある。保健師が集約されると、本庁から来てもらいにくなくなったり、一人ずつ見てももらえなくなったりする不安がある。

甲子地区に応援センターを残して、そこに1人でもいいから保健師を配置していただければ、私たち民生委員も気が付いた時に相談に行ける。甲子の保健師さんは本当によくやってくれている。一人ひとり聞いてくれて教えてくれる。本当にありがたいと思っている。できればこのままの体制でお願いしたい。

意見： 今の話に加えて、大橋地区は現在24世帯・32人の人口。施設入所者は6人、週2～3回のデイサービスに3人が通っている。

その中で、月1回甲子センターから職員が大橋に来て「大橋おたっしや相談」をやってもらっている。保健師による血圧測定、健康相談、税金等の支払いをやってもらっている。

甲子センターがなくなると困る。絶対に存続してもらいたい。

意見： 33年間行政連絡員をしている。声を掛け合い積極的に公民館事業に参加している。
私たちは毎週甲子センターで100歳体操、口の周りの筋肉と舌の機能を向上させる運動、健

康講座を、毎回20人以上の高齢女性が声を掛け合って参加している。集まりの際に保健師に相談するなど、大変お世話になっている。

私たち高齢者にとって、生活応援センターの保健師は頼りになり、身近な存在。今後も配置をお願いします。また、甲子公民館では、複数の自主学習グループがある。甲子地区は、公民館活動が盛んな地域。甲子センター職員と対話することで様々な情報を共有でき、助けていただいている。

住民が多く集まり、自分の趣味等今後続けていくためにも、生活応援センターの存続は大事であるとする。なんとかよろしく願います。

意見： 第六次釜石市総合計画 後期基本計画の中に「地域コミュニティの更なる強化を目指す」ということが謳われているが、これに逆行しているのではないか。生活応援センターの問題は、ここにかかってくると考える。

甲子公民館の利用者数、クラブ数は増加している。保健師について、松倉町内会長が言う通り、民生委員と情報交換をした後、2〜3日で全て細かく回ってくれる。早期解決できる。すぐに相談できる。

生活応援センターは人員整理をしたとしても、失くしてはならない。身近なところで話ができるということが重要。小佐野等に出向くのは難しい。高齢化はますます進む。釜石市独自の施策だが、あっていい施策だ。人員整理の前に、こういうことも考えていただきたい。

意見： 「地域のことは地域でやりましょう」という野田前市長の考えから始まったのが、この地域会議だ。地域会議では、要望も必要だが、自分たちでできることは自分たちでやった。

第一は仙人マラソン。県主催だが、最初は駐車場問題等が大変だったので、今の県幹部職員が地域会議に来て「どうか来年はお願いします」と言われ、手伝いを始めた。

また、熊本地震が発生して東日本大震災のことを思い返すと、マニュアル通りにいかないものだった。地域の人々が避難場所を一番知っている。震災当時、避難所になった甲子センターに地域会議で集まって停電の中話し合いをした。帰宅難民になった。こういうこともあり、マニュアル通りいかないと感じた。地域のことは地域でやる体制ができる地域会議をもう一度作りたい。

市民体育館は、駐車場がない。近くの駐車場は鶴住居トモスのものだと言われた。どうにかならないか。

震災当時、小川の市民体育館にいて卓球をしていた。上から色々な物が落ちてきた。体育館も安全ではない。マニュアル通りいかない。だから外に出て退避した。大松小学校は避難所になっているが、あそこの電気が一つずつ切れている。我々でやりたい気持ちがあるが、高い所にあるので点検をお願いしたい。

やはり、地域の人たちで中心になって地域会議をやるべき。市で様々なマニュアルを持ってくるが、その通りにはいかないと思うので、地域の中で考えて、話し合いをしながら進めていくのが良いと思うので、副市長や市長をお願いしたい。

意見： 市の人口は減っているが、高齢化が進んでいる。民生委員をする方も高齢化が進んでい

る。ずっと地域で暮らしているからこそ、民生委員や行政連絡員も地域の人間が担う。

一人暮らしで、介護の様子が見えてきたと思っても、声をかけやすい人もいれば声をかけにくい人もいる。それを考えれば、地域を分かっている保健師がいることが心強い。ケアマネではなく保健師に動いてもらわないと介護申請や予防ができない。

高齢化が進む中、保健師が地域に1人いるかいらないかで、役を持った私たちの立場や行動が大きく変わる。安心感もある。保健師は地域に1人は必要だと思う。

意見： 地域会議は、生活応援センターあつての地域会議だ。大畑町内会の活動をやっていて、地域会議があるから松倉から大橋まで一つの組織としてまとまっていると感じる。地域会議や生活応援センターの会計云々という問題になっていけば、それぞれの地域の活動が見えなくなり、バラバラになってしまうのではないかと危惧する。

【副市長】 ありがとうございます。

今まで8つの地域会議を順番に回ってきたが、この問題に関してこんなに意見が出たのは初めて。今回、決定事項を伝えに来たわけではなく、案に対する意見交換会を別日程で設定するというご連絡のつもりだった。今後の意見交換会で聞く予定のものを、今、甲子の皆さんから全て聞いてしまった気持ちになった。甲子の地域力の高さを感じ、センター長や保健師も聞いていて嬉しかったと思う。

8つのセンターを公平に扱わなければいけないので、おそらく年内にもう一度ここに来て、今のような話をして、皆さんと意見交換をして、記録に残して、役所に持って帰って、議会にも説明し、検討したい。

今日いただいた意見は、1回目の意見交換会のつもりで、1つも漏らさず記録する。決して結論が決まっているわけではない。トータルで財政を考えて、釜石市は向こう十年大丈夫だというふうにしていく責任がある。戻ってから市長以下で議論して、今度の意見交換会に向けて、今日頂いた意見を踏まえて案を出せるようにしたい。安久津さんから、最初の地域会議と形が変わっているのではないかと話が合ったが、原点に返って、地域の皆さんに協力をお願いできるように役所で検討していきたいと思う。議員さん方にも聞いてもらったので、議論する機会があると思うので引き続きよろしくお願いします。

質問： 地域会議に年1回出させていただいて、同世代の意見があがってきていないと多く感じる。小中学校の子を持つ親からもらう相談の中から検討してもらいたいことがある。

甲子のアユ釣りをして地元に送ると、日本一おいしいと言ってくれる。皆さん甲子川でアユ釣りを楽しんでいる。県外から来ている人もいる。しかし、釣りに来てくれる人が、いろいろな場所に車を停めてしまう。散歩をしていると、「ゆっくりアユ釣りを楽しみたいが、この辺に車を停める場所がありますか」と聞かれる。

先ほどからの保健師の話や、地域をよくする話は、予算があつての話だと思う。甲子にはいい川があつて、アユが釣れる環境がある。そこで、アユを釣るための駐車場を作って、駐車場代を貰えば、少し財源になるのではないか。自分たちの地域を守るためには、自分たちの予算を作ることすごく大事なことでないかと感じる。

近年あった山火事も、消防団は最初に自然水源から水を貰わなければいけない。川の整備を含め、自分たちでやるには限界がある。少しでも予算を生んで、環境整備をして、駐車場を整備して、予算化して、そういうものを使って優秀な保健師を雇い入れるような循環がないと長続きしないと思う。先輩方から知恵をいただいて、アユ釣りできるいい環境を作ってお金をもらって釣りを楽しんでもらいたい。そういうことも地域会議で議論したい。

また、働く世代が困っているのはクマ問題。クマが出没すると保護者が迎えに行く仕組みになっている。今は夫婦共働きなので、夫婦間で時間休・年休の話になり、議論になる。働ける環境が限られ親の負担になっている。クマを駆除する前に、子供を守る観点から、地域の方々に安全なルートを確保して、ここまでは小学生を送り届けようという仕組みを作ると、保護者の負担が減るのではないか。今では冬場でもクマが出没するので、保護者の負担は大きい。

回答： R8.7月末で167件の出沒状況。R6の一年間の出沒数164件に匹敵する。

質問： 小学校周りの草刈りをボランティアでやっているが、JRの線路の草を勝手に刈れなくて困っている。JRから許可をもらうために市に間に入ってもらいたい。

回答： 安久津さんが議長をしていた時に、議長と甲子センターとJRと三者で協議し、承諾を受け作業したことがある。可能であると考えするため、後ほど甲子センターに相談してほしい。

回答： 第一に児童生徒の命を守る取組みで、小学校一年生全員に市内企業からの提供があつてクマ鈴を配布した。小学校二・三年生までは、教育委員会の予算でクマ鈴を配布した。なるべく早く全学年にいきわたるように予算の獲得や対応を考えている。

また、中学生が部活後16～17時に下校するのが不安だという相談があり、7月から中学校のスクールバスの運行基準4kmを小学校2.6kmまで引き下げた。市内全生徒をスクールバスで送迎するという意見が他の地域会議で出されたが、予算等の問題で実現は難しい。クマ対策を基準にスクールバスを運行するということになると、去年も釜石駅前で緊急銃猟があつたように、市内各所に出没する環境で抜本的な児童の安全確保は難しい。ただ、ご意見があつた地域の皆さんの見守りの目と、有害猛獣がどこに出没するか学校教育の現場でも、安全対策として教育を続けている。あらゆる面で、地域の皆様の知恵を借りながら、児童生徒の安全対策を進めていきたいと考えている。

(4) その他

質問： 先日、旧大松小学校体育館避難所の開設情報があつたが、いつもは高齢者等避難開始と同時に避難所が開設されるが、今回は避難所の開設のみだった。地域の自主防災としてどう活動できるか。

私たち大松町内会の自主防災の基準だと、高齢者等避難開始が出ないと、避難所の運営に携われないという形にしている。住民から何回も「避難しなくていいのか」と電話が来た。

はっきり言って中途半端だと思う。本当に避難所を開設するのであれば、必要地域だけでも高齢者等避難開始を出す判断をしてもらえれば、私たちの活動もスムーズに、シナリオ通り進められた。

回答： 7/28(火)の大雨について、結果的には大雨あるいは土砂災害の警報が出されなかった。

気象台から、火曜日の夜の初めころから夜遅くにかけて、大雨の可能性レベル3、あるいは土砂災害危険警報レベル4を出す可能性があるというお話を受けた。夜間に避難所に足を運ぶのは困難になるだろうということで、イレギュラーではあったが、明るい時間に避難所を開設し、早めの避難を案内した。高齢者避難や避難指示という言葉は使わなかった。

5月に新しい防災気象情報の基準となり、今回初めてその基準に近いレベルの予報が出た、初めての状況だった。分かりやすくという観点では今後工夫する必要があるが、今後とも柔軟な形で対応を考えていきたい。

質問： 今回のような情報の出し方では、はっきり言って高齢者は避難しない。以前の台風でもそうだが、空振りすることは仕方がない。本当に危険が迫った時に避難できない人は、防災主体で名目として迎えに行くという体制をとっている。きちんと線引きして情報を出してほしい。今回は中途半端だったと思う。

回答： 先日は避難所を13か所開設して、実際に避難したのは10人程度だった。市としては、あまり皆さんの危険をあおる方向には持っていきたくない。空振り覚悟というお話があったが、その通りだと思っている。皆さんに対するアナウンスの仕方を工夫させてほしい。

【甲子小学校校長】

クマ対応について、一昨年までは集団下校だったが、昨年人身被害が出て、先生方も守らなければならないということで、引き渡しという形になった。引き渡しは、保護者の方に早く迎えに来てくださいということではなく、遅くなっても大丈夫だからお仕事を終えられた後に迎えに来てくださいというもの。本日の意見から、そういう風に理解されている方が多かったんだと思った。

また、地域会議議長からご紹介いただいた甲子小学校が今年で創立150周年となった。7月に入って、文書等が整い、ご来賓の皆様、保護者、地域の皆様、地域の企業の皆様、旧職員に対して7/31に150周年記念式典の案内を出した。今回は100周年以来50年ぶりに記念誌を作成する。記念誌を作成するためのお金を積んでこなかったのが、関係の皆様に協賛金をお願いしている。そういった中で、甲子地域会議からもたくさんの協賛金をいただいている。感謝申し上げます。

記念事業として、一学期に運動会に地域の皆様に招待した。ドローンでの航空写真の撮影も地域の皆様に参加してもらった。二学期は11/14の学習発表会にも足を運んでいただきたい。今の子供たちはどんな風に頑張っているのか覗きにきてもらえる機会にしたい。

記念式典当日は、授業参観ということで、旧職員や地域の皆様にご参加いただきたい。式典の中では、アトラクションということで、松倉虎舞と五・六年生の合唱を予定している。

記念公演は、藤勇醸造の創業者の方が甲子村出身ということで、小山専務に来ていただくことになっている。併せて、子供たちに体験活動として味噌づくりを予定している。一緒に味噌を作っていた方には、3月頃にお渡ししたいと考えている。よろしくお願いします。

大きな150周年という節目を、改めて地域の皆様とお祝いしたいと思っている。子供たちにとっては、地域の皆様に感謝申し上げる機会にしたいと思っている。今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上